

指導と評価の計画【地理歴史科：地理A】

単元名 追究事例 歴史2 植民地支配 の歴史と人々の生活の関わり -サハラ以南アフリカ-
--

内容のまとめり B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解
--

1 単元の目標

- ・西・中南アフリカに見られる旧宗主国の影響、植民地支配の歴史と人々の生活文化や産業への影響について理解する。また、近年における生活の変化や経済成長への歩みを理解する。
- ・西・中南アフリカに見られる旧宗主国の影響、植民地の歴史と人々の生活文化や産業への影響について、多角的・多面的に考察し、表現する。そして、経済成長の兆しと課題について考察し、表現する。
- ・西・中南アフリカに見られる旧宗主国の影響、植民地支配の歴史と人々の生活への影響について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
西・中南アフリカに見られる旧宗主国の影響、植民地支配の歴史と人々の生活文化や産業への影響について理解している。また、近年における生活の変化や経済成長への歩みを理解している。	西・中南アフリカに見られる旧宗主国の影響、植民地の歴史と人々の生活文化や産業への影響について、多角的・多面的に考察し、表現している。そして、経済成長の兆しと課題について考察し、表現している。	西・中南アフリカに見られる旧宗主国の影響、植民地支配の歴史と人々の生活への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次	第1時	【ねらい】 植民地支配による影響を理解し、民族融和や共生社会の実現に向けて何ができるかを考える。 【主題】 なぜアフリカでは民族対立が激化したのか。				
		・大航海時代から帝国時代を経て植民地支配に置かれるアフリカ諸国について理解する。	●			旧宗主国の影響、植民地の歴史を理解できている。
	第2時	・映画「ホテルルワンダ」(部分)を視聴して植民地支配と民族対立の関連性を理解し、現代の民族問題の解決策について考察する。		○		映画を通して民族対立の原因と人々に与える影響を考えることができている。

第3 ~ 4時	<ul style="list-style-type: none"> 映画『マンデラの名もなき看守』を視聴してアパルトヘイトによる分断から共生への道を歩む南アフリカ共和国から、共生の在り方を考える。 	○	○	<p>映画を通して、差別の歴史から、共生の在り方を考えることができている。</p> <p>自身が興味関心をもって、主体的に学ぶ姿勢を示している。</p>
第5時	<p>【ねらい】 気候と農業の因果関係を踏まえながら、アフリカに見られる農業経営の特徴と課題を理解する。</p> <p>【主題】 アフリカ諸国の多くが発展途上国なのはなぜか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> 気候と農作物の分布の関係を理解するとともに、アフリカでは単一栽培による経営が中心になっていることを理解する。 アフリカ諸国の輸出品目からモノカルチャー経済の傾向が強いこと、またその影響から経済が安定しないことを理解する。 	○	●	<p>気候と農業の関係性を理解しており、アフリカに見られる単一栽培という特徴を理解できている。</p> <p>一次産品を中心とした農業と工業であるため、貿易収支や経済発展に課題があることを理解できている。</p> <p>モノカルチャー経済を改善するためにフェアトレードや多面的農業が有効であることを考えることができている。</p>
第6時	<p>【ねらい】 近年のアフリカ経済の発展を通して、人々の生活水準の変化を理解する。さらに、経済発展の背景にある国際的な援助・支援と中国のアフリカへの影響力の拡大の背景を考える。</p> <p>【主題】 中国や諸外国がアフリカ諸国を支援する理由は何だろうか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> インターネットや携帯電話などの通信環境が改善されたことで生活水準が飛躍的に向上したことを理解する。 経済発展が進む背景に旧宗主国の支援があり、さらには中国の経済援助が拡大している背景について考える。 	●	●	<p>アフリカ諸国に見られる生活水準の変化を理解できている。</p> <p>経済発展と今後のアフリカ諸国の発展への展望を考えることができている。</p> <p>自身が興味関心をもって主体的に学ぶ姿勢を示している。</p>

4 観点別学習状況の評価の進め方

<科目> 地理A <主題> 生活文化に残る旧宗主国の影響 <時数> 第3～4時

<活動> 映画『マンデラの名もなき看守』を視聴してアパルトヘイトによる分断から共生への道を歩む南アフリカ共和国を学ぶ。

<評価実践>

《知識・技能》

【定期考査】 以下は、評価Aの記述例である。

問7 下線部Dについて、南アフリカ共和国では人種による分離発展を掲げた政策が実施されていた。アパルトヘイトとはどのような政策だったか。人権的な問題点を含めて説明しなさい。

人種間での対立を回避するため、白人と黒人を分離した政策。公共施設で人種ごとに使用できる場所が異なった。多数派の黒人の所有権や投票権を認めず、少数派の白人が優位なものであった。

※「人種を分離した政策だった」など、どのような場面で人種を分けていたのか具体性に欠ける記述は評価Bである。

問8 問7の政策に反対して投獄され、やがては南アフリカ共和国で黒人初の大統領となったネルソン・マンデラが共生に向けてどのような取り組みをしたか説明しなさい。

アパルトヘイトによる人種間での対立から融和に向けて国旗や国歌を新しくした。またラグビーワールドカップを成功させ、国を挙げて南アフリカチームの優勝に貢献した。貧困問題の解決に向けた政策を実施したが、問題の解決には至らなかった。

※「差別を解消するために尽力した」など、どのような政策を実施したのか具体性に欠ける記述は評価Bである。

《思考・判断・表現》

【授業プリント】 映画を視聴し、差別的なアパルトヘイトをどのように感じたかが表現できている。南アフリカ共和国が人種分離をなぜ進めたのかを考えている。

o. 分離すると発展?

Q2 国家反逆罪として逮捕された黒人はどのような環境で投獄されていたでしょうか? (『マンデラの名もなき看守』より)

離島 / 小島 (町から離れた) / 白→黒 / 口が悪い / 11枚の

Q3 当時の白人は黒人に対してどのようなイメージをもっていたでしょうか?

グレゴリー (主人公): 「黒人はみんな う つきですから。」
グロリア (妻): 「あいつらはみんな 下 リストよ。」

Q4 街で逮捕された赤ちゃん連れの女性はなぜ逮捕されたのでしょうか?

パスポートを持っていないから

Q5 白人にはパスポートは必要なのでしょうか?

必要じゃない

Q6 なぜ民族を分けると発展すると考えたのでしょうか? (『マンデラの名もなき看守』より)

スズメツバメ アヒルがチヨウ

Q7 なぜ人は自分たちと異なる人種、価値観を排除しようとするのでしょうか?

自分より立場が下の人をつくり、自分の方が上だと思ったから。自己中心的な考え。

評価B…共生、他者理解がされなかったこと
の背景を考察できていない。

o. 分離すると発展?

Q2 国家反逆罪として逮捕された黒人はどのような環境で投獄されていたでしょうか? (『マンデラの名もなき看守』より)

キニ言葉 / 7枚の / 島に11 (11枚の)

Q3 当時の白人は黒人に対してどのようなイメージをもっていたでしょうか?

グレゴリー (主人公): 「黒人はみんな う つきですから。」
グロリア (妻): 「あいつらはみんな 下 リストよ。」

Q4 街で逮捕された赤ちゃん連れの女性はなぜ逮捕されたのでしょうか?

パスポートを持っていないから (身分証)

Q5 白人にはパスポートは必要なのでしょうか?

必要ない

ニババ / スズメ / アヒル / チヨウ

Q6 なぜ民族を分けると発展すると考えたのでしょうか? (『マンデラの名もなき看守』より)

自分たちが正しいと考える、いるから

評価A…共生、他者理解がされなかったこと
の背景を考察している。

《主体的に学習に取り組む態度》

【本時の振り返り】

Q8 人々が共存していくためには私たちはどのような意識をもつべきだと思いますか？

おにがいの気持ちを
真実で、理解し合う
ことが大切だと思ふ。

評価A…共存のために何を
すべきかを書いている。

Q8 人々が共存していくためには私たちはどのような意識をもつべきだと思いますか？

いろいろな人の意見を
聞き、考え、尊重する。

評価A…共存のために何を
すべきかを書いている。

Q8 人々が共存していくためには私たちはどのような意識をもつべきだと思いますか？

否定をしながら肯定を
し合えば良い。
自分自身も否定するより
肯定したほうが嬉しい。

評価B…共存のために何を
すべきかの内容が不十分。

【単元のまとめ】

《評価規準》

- ① ネルソン・マンデラについて授業内で学習したことに加えて彼の功績や発言などを調べる。
- ② 解答用紙の規定のスペースを埋める。埋めた容量に応じて加点する。

記述例 1

- ・ 評価A
- ・ 規定容量で30点
- ・ マンデラの政策やそのねらいについての内容が書かれている。

2
30

ネルソン・マンデラ / 2013年 死去 95歳没

1964年に国家反逆罪で終身刑となり、刑務所に収監されてから27年後に刑務所を出ることになった。その後マンデラは

ネルソン・マンデラは南アフリカで進められたアパルトヘイトを行って

↳ 人種隔離政策

ネルソン・マンデラは多くの信頼を得て南アフリカ共和国における黒人初の大統領に就任した。

- ・ 選挙前は圧勝し大統領となった
- ・ 在任は1994年～1999年の5年間
- ・ 1964年 刑務所に収監
- ・ 1991年 刑務所を出た
- ・ 1994年～1999年 大統領に就任 + ノーベル賞受賞
- ・ 2013年 死去 95歳没

ネルソン・マンデラは有能な指導者と言われ、1993年にはノーベル平和賞を受賞している。

また、ネルソン・マンデラは国家反逆罪と言われ刑務所に収監されて27年間のあいだに家族を自らに殺された、しかしネルソン・マンデラは刑務所を出た後、自らに對し、何かやり直さなくても、国のために行動していた、僕はネルソン・マンデラを知ってから白人でも黒人でも同じ人間に変わりはないので差別なく全ての人が皆平等に生活できるように思っています。

改め?

5 今後の課題

評価方法について中学校での実践例を伺った。以下の点を参考に、来年度に生かしていきたい。

知識・技能

- ・主に定期考査で評価する。
- ・技能に関しては授業内での活動でも評価できる。
(例) 地図、グラフ、資料の活用

思考・判断・表現

- ・授業での学びを定期考査において論述問題、記号選択の問題（大学共通テストで出題されるような問題）で評価する。
- ・思考力は授業内容の学びを生かした単元のまとめ、本時のまとめなどで評価できる。
- ・表現力はプレゼンや単元のまとめなど要所で評価できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・「児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（2019年3月29日）の通知の中で、知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身に付ける学習において「粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしているかどうか」をポイントに置いている。
- ・主に振り返りの時間を活用して評価している。パターンとしては2つあり使い分けている。
 - ① 毎時間の振り返り・・・自己の変容を評価 -----> 生徒の自己評価
 - ② 単元ごとの振り返り・・・自己の考え方、理解度を評価 ----> 教員がつける評価
- ・振り返り際には、生徒に観点を示してまとめさせる。
(例) 各時間のキーワードを示して、そのキーワードをどれだけ用いてまとめられたかで評価する。
5個のキーワードのうち、3個活用できた場合は評価3にする。
- ・自己の調整と粘りをどのように評価するかは模索中である。
(実践例) テスト後、間違えた問題を自己で調べさせる。このとき生徒には「どのような知識、技能があれば正答することができたか」という観点でノートにまとめさせる。
- ・生徒自身が主体的に学んだことをいかに点数化するかを今後も研究していく必要がある。